



語林類葉

五

威洲縑

ホ 2  
398  
5





語林類葉卷之九

清水濱臣輯

その部

二言

とく  
混

保憲女集  
いづのゆゆみのつゝもまゝあふゆ〜。

とく  
賤子

拾遺貞外下

小侍後集  
とく  
いづのゆゆみのつゝもまゝあふゆ〜。

陽田川ヲ云

袖中十二 致長ハ云ク

又本 季經

ハ麓ハ...

○又本廿六 渡 永久四年八月雲居寺哥合露 源經兼

夕...

此判者基俊云尤哥娑ハ...

...

...

...

スヘカヨヒ又スバ...

袖中ニ...

...

...

袂衣四...

...

いかにいづれをいふに  
目と為すといふに  
後傳例考

三言

草か〜

拾送雜秋 好忠

後拾送秋上 長能

後撰雜四 好忠

○

鹿ノフトセリ 後世説ナリ

五代夏仲実

同秘下 藤原多富 仲実

日新九月 實保

全載別

永久四年 忠房  
いかにいづれをいふに  
目と為すといふに  
後傳例考

某〜〜 宿世

○源少女 物のいかにいづれをいふに  
目と為すといふに  
後傳例考

○同同 おりりり  
いかにいづれをいふに  
目と為すといふに  
後傳例考

いかにいづれをいふに  
目と為すといふに  
後傳例考

五く

尾形所看蒙

くちのそまが志つりくちのそまが志つり

玉葉尺素 法成寺の通前松政太政大臣

百代尺放 法橋頭昭

五く

新六巻月信実

木板のふきよめりてきよめりてきよめりて

○まむ音楽その見物并習の人あはれきり

いふもりりいふもりりいふもりりいふもりり

五く 五く 〇緒ヲ一也

六帖 〇あはれきりてきよめりてきよめりて

古今雜一 〇あはれきりてきよめりてきよめりて

〇保憲文集詞をゆけ糸をきけ

五く

源朝 〇細光者の齒のあら

てはのゆめりてきよめりてきよめりて

〇増鏡序はけりて

〇源

後拾秋上 志業

〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源

新朗出 好忠

〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源

部古雅上 月あきりんき季 吟詞か 何廿出より 未考

〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源

秋草二 古に草也

〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源

拾遺文外

〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源

〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源

〇源

又本世六有家

〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源

〇

〇源 真〇スリナホノ畧カ

長明無名抄 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源

下 若菜

〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源

唯百 仲実

〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源 〇源

〇

〇源



とらや。 びんけん

後衣一上 五十

ろくろ。 伊豆やみもあ。 ちやう母おる。 ちやう

けら。 ちやうの孟速。 女三ノ宮ノ急ニアマ。 増鏡 のち

八月十日。 ちやう小太子にちやう。 ちやう

秋のみ 秋実

中野日記。 ちやうのちやう。 秋のみ。 ちやう。 新古今

ちやう。 ちやうのちやう。 ちやう。 ちやう。 ちやう

実方朝臣

○ ちやうのちやうのちやう。 ちやうのちやうのちやう。 ちやうのちやうのちやう。

ちやうのちやう。 透箱

ちやうのちやう。 ちやうのちやうのちやう。 ちやうのちやうのちやう。

ちやうのちやう。

ちやうのちやう。 双六

万葉

○ 和名抄

イ  
マ  
ハ



拾遺雜志 五ノ人云

日ノ初ノ母多クシテカノ母アリテヤクハカノ母アリテ...

非經集 雙六

○東鑑 世五<sup>世</sup>

雙六者於持者可被許之至下臈

者永可令佛止之○今昔世六<sup>世</sup>雙六ハ本ヨリ

シケル問ニ

高野人 世捨人

高野日記

高野人ノ文ノ母...

林ノ葉

同隣 家ノ秋

○平家御旗ハ車ノ...

...

...

...

...

...

和名抄

○延喜式

○東鑑十建久元年十月十三日頼朝於遠江国  
菊河佐々木三郎盛綱相副小刀於甕楚割  
居折 以子息小童送進御宿云云彼於敷被染  
御自笔曰

○侍るる人の情もいと和まらぬ所もいと  
○

皇太后をまつり多る万葉をよみしと云人老  
所古雜上 八条中大臣  
陰にくれし程もあぬれんとす

○

長み川も 墨づき又墨づき

酒頃 志らくさゆの紙四枚をとりて  
つる解 足前あり○鈴号 けれし  
墨づきのみしり

長み川

古今雜上 志家  
伊勢  
厚くも菊の毛候 秋のくれし 長み川  
○

○和名栲津國郡名任吉領之○

寸汚

延喜式

○中誓見能子ぬの寸汚

ねむるにみせあひまゝにせむるハ

白氏文集

白氏文集

無滞

小嶋口号

無滞

五言

枕丹子

十二月夜十二月扇 十二月蓼水 老女假粧女醉

胡氏光 法師醉舞 無酒神樂 勅使被 打竟

馬昆崙 八仙禹舜 ○源 初子

心○同居 兼 ありし月夜 雪とやうくふつ

心○同居 兼 ありし月夜 雪とやうくふつ

○同類記  
○

そのり

山家下  
の院  
のり

そのり

そのり

○

そのり

康昌記宝徳元年十二月廿日参給事中文亭煤  
拂也○中御門宜院卿記文明十二年十二月九  
日今日禁裏御煤拂○東鑑卅一十六 嘉禎二年  
十二月六日己丑霽為大膳權太夫奉行召陽陽  
師等於御所歲未年始雜事日取勘之御煤拂  
事有相論文元朝臣申云新造者三箇年之内可  
有其揮云親職暗賢等朝臣之先達者雖無指  
文皆所記置也至新造者無煤之故歟有煤者可  
拂歟云云所詮比條無證然者無煤拂御沙汰  
可宜歟之由被出之間各不申子細也○

已々如也

袖中五十一

已備いゝ

滋養集一  
何事に人を見て  
五 大石少抄入通

何事に人を見て

○同#物ノ情  
何事に人を見て

○金葉連系

何事に人を見て

何事に人を見て

何事に人を見て

保憲文集  
何事に人を見て

同  
何事に人を見て

○

~~~~~

源玉~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

○

六言

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

隆信集下 廿四 女の~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

紫玉~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

源紅梅~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

いさかしくおぼれりて○今昔廿八日大跡ヲ澄シテ  
歩ヨリ可行キ也ト定メテ人澄テ後○濱松ニ夕  
くらのさしつゝいづゝきみりつゝ○源野命りつゝ  
くさみりつゝけいせいありつゝ海をみりつゝ  
せんせんて巡り源

七言

ささみりつゝ

○ 続詞花 雜工 筆方  
ささみりつゝ せいのたけのうら  
ささみりつゝ せいのたけのうら

筆方 筆戸竹垣

五二集 筆方 筆戸竹垣

散木秋 筆方 筆戸竹垣

筆方 筆戸竹垣

第廿一  
花記

八言

七言歌

とくらのとくら

春山之閑乃乎為黒尔春菜採妹之白奴見四子

比ニ句契件カ説モ誤也不居民ノ子鳥里

四門ノアヤマリセウレシハヨシ山ノサシ出

ケルハマカレルサマセ

字竟ニ

曾丹集

とくらのとくらとくらのとくらとくらのとくらとくらのとくら

後拾巻上 権作正静用

とくらのとくらとくらのとくらとくらのとくらとくらのとくら

とくらのとくら 基後

とくらのとくらとくらのとくらとくらのとくらとくらのとくら

凡作巻上

○神中抄 山とくらのとくらのとくらのとくらのとくらのとくら

のとくらのとくらのとくらのとくらのとくらのとくら

坂百春物 伊実

とくらのとくらとくらのとくらとくらのとくらとくらのとくら

○新六 春野 とくらのとくらとくらのとくらとくらのとくら

十一言

とくらのとくらのとくらのとくらのとくらのとくら

とくらのとくらとくらのとくらとくらのとくらとくらのとくら

とくらのとくらとくらのとくらとくらのとくらとくらのとくら



十四言

秋のあはれ論をいふつげあ

中務り記

セの部

一言

セ 元ノ弟

万ニ長皇子と皇子所哥

舟生のくせいのあひて ゆきしむらひさきさきそむいふ

コシハ女ヨクイフニマラスシテ見皇子ヨリ

身皇子アサシテマトヨマヒクマヘリ

ト訶ノユクレ親敬レ ○百十七 哀傷長逝ス

ノ老ケルヘシ 哥 哀傷長逝ス 哥 哀傷長逝ス

波之伎余思奈乃乃美許等○

不旧訓

二言

セ 節供

○ 宇治保 五月廿九日 解

○

セら 功の節 さいとカケシニヤ

かろとら玉 〇竹取

〇竹取 〇

〇

セら 功

伊智物 〇

セら 背門

拾五十四

銭

〇 宇治保 〇

〇 〇

〇

三言

せうと 見人のあまのこころ

落久屋セニ せうとよふゆ せうとけけくくき

思ふらんハのほろめ せうとあまのこころハ 手習ハに對シテ云

の同女 せうとあまのこころ 扇上ハ 節ハカガシハ。

せう

獲衣下 硯五を舟のせうとふらん せうと 同三上三+

沖のハのせうとあまのこころ 船用集云

物茂御曰水主ノ居処ヲセカヒト云セカイヤリウ

ト云ハニ階ノ下也舟ノ左右ヲ脇落間ノ如

セカイト云ヤリウノ出シ楳ノ下則セカイ

也軍船ハヤカイノ上ニ戦アセリヲ明ルト

云是ハ上ノ櫓ノ出シ楳ニ弓ノ上筈ツカハ

テ不射故筈ノ入ホトツ 穴ヲ明ル也サレ

ハ左右ノ板楳ヲセカイト云ロカイヲ押取

の花鳥玉ハ 早舟ハ艦を多くき門ハを云舟の両

首のせがらふハテも十もむそのあまのこころ

あまのこころの盛衰記新中納言知盛舟のセカ

イニヨリ鳥ヲ放テ玉ヲ鞆ノ六郎ハヤカイニ立テ

舟ノ下知ヲナスト見ユ<sup>四</sup>〇同世八船ニハ馬立ハ  
キ所ナカリケレハ舟ノセカイヨリ馬ノ頭ヲ磯  
ハ引向テ〇藻塩草セカイナトナキ船ト注セ  
ルハ上棚ノト心得タルアヤマリ也舟ノ  
臺間<sup>アヒ</sup>丸石ノ惣名トシルヘシ

<sup>後玄極</sup>船中<sup>ニ</sup>照<sup>ル</sup>日の<sup>く</sup>けの<sup>ま</sup>る<sup>く</sup>は<sup>ハ</sup>セ<sup>ら</sup>る<sup>水</sup>は<sup>た</sup>は<sup>ら</sup>る<sup>り</sup>  
〇船法規矩云舟の肩ニ背ノ中ヲ増減シテ枕  
ノ長ヲ定ムル法アリ近頃ロカイト称ス櫓櫂  
ヲアツカフ所故也今セカイトイハハ不知モ  
ノアリ古ハセカイトイハ<sup>リ</sup>トイヘリ今北国

西國ニテハヤカイトイフ〇船用集云カノ字濁  
ベシ船ノ西方ノ惣名也〇舟那保兼宴<sup>あまのりたみそ</sup>  
み<sup>り</sup>そ<sup>の</sup>源<sup>宰</sup>相<sup>船</sup>の<sup>ゆ</sup>き<sup>の</sup>せ<sup>く</sup>を<sup>た</sup>わ<sup>る</sup>  
〇<sup>マ</sup>物<sup>の</sup>元<sup>船</sup>の<sup>ゆ</sup>き<sup>の</sup>せ<sup>く</sup>を<sup>た</sup>わ<sup>る</sup>

盛衰訛三八手取足元セリ倒メ〇今昔世七<sup>四</sup>  
統松ノ火ヲ以テ毛モナクセ、ル<sup>く</sup>燒テ〇  
同世九<sup>七</sup>毎カ切キ子子ヤ、テカス 櫓ニ我  
子ノト云テ〇

セ多ス 瀬降

於送恩呈上

○ *Handwritten cursive notes*

セ多シ

○ 落大庭一下セ帯カハセ せり めり り ○ 今昔廿六  
事ニ事ヲ付テ責リメントシテ ○ 宇治拾遺三

○ 盛衰記五橋 木ニ縣テ  
打セタメ ○ 同セニ 裁ハ入道ニセタメ 殺サレ  
ン スル 〇

セ多シ 節忌妙壽寺本

土佐日記

セ多シ 背

*Handwritten notes in cursive script*

○字鏡倭加ハ百番 ○源まさむね ○世よ ○學まなぶ ○月つき

馬うまの 世よの ○源みなもとを 世よに 世よに 世よに 世よに

○中なかつに 治ち於おて 世よに 世よに 世よに 世よに

せ

みよひのしるしを 世よに 世よに 世よに 世よに 世よに

○百代ひゃくたいの 世よに 世よに 世よに 世よに

世の 窮

中なかつに 治ち於おて 世よに 世よに 世よに 世よに 世よに

同どうに 世よに 世よに 世よに 世よに 世よに 世よに

世よに 世よに 世よに 世よに 世よに 世よに 世よに

○

せ

古今雜ここんざつに 叙ぎよす 世よに 世よに 世よに 世よに 世よに

後撰ごせんに 世よに 世よに 世よに 世よに 世よに 世よに

○毛詩 兄あに 闕あひら 摛あそび

せ 大原地名の芥生



山家集下 六十八

大原のせむしを雪の道にあげてこゝに人を見せしむる

拾玉二 炭 電

あやふかき心はかきやせしむるのゆゑの秋の油

百代離二 大原のせむしを云ふを 後徳大寺大権

世にせむしを門にあげて大原やせむしを里のまきね 庵丹

丈木 季 遍

大石やせむしをまきねのまきねをまきねのまきねのまきね

二条大式集 道村政遺火

まきねのまきねのまきねのまきねのまきねのまきね

明日香井集

まきねのまきねのまきねのまきねのまきねのまきね

田言

せむし

新様楽記開收之様解

新六 若草

人志多し移る心はせむしを新のまきねのまきね

丈木廿八是草回

せむし

あやふかき心はかきやせしむるのゆゑの秋の油

○

せむし



顛沛集 野徑眺望

支本廿六

野路をえ渡るる雲のしほりも  
あはれん

永久四年百首 筑前 仲実

支本廿六

筑前仲実のしほりもあはれん  
あはれん

同 知家

世に解るるしほりもあはれん  
あはれん

現存六

新六 為家

支本廿六

新六 為家のしほりもあはれん  
あはれん

〇

セヨ 致障

雅亮 装束抄云 三方ニミヌヲカケテオロシタ

ルウハニゼンシヨウトテマンノヤウナルキ

又ニ 高松ヲホンタイニテ四季ノ木トモヲ

書タリニ幅ノ一ハリアルナ廣キヘリノテ

ヒサキツナヲサシマハシタルヲミスノウ

ハニヒリナリノ源ヨリセヨ解と

おろしゆの日にテ

セ



菅万下山河之流<sup>アヤキセ</sup>杵瀨良杵<sup>ナラ</sup>裳<sup>ナ</sup>の和訓榮可考。

和名杵 ○和名釋義瀨可考

○ 根葉ニ 定<sup>シ</sup>所<sup>ニ</sup>ぬ<sup>ル</sup>谷<sup>ノ</sup>セ<sup>ニ</sup>……  
草

拙者<sup>テウシヤ</sup>

井露寺元長卿記

ヤ<sup>ニ</sup>云<sup>ハ</sup>……無是非

……  
……セ<sup>ニ</sup>云<sup>ハ</sup>……

セ<sup>ニ</sup>云<sup>ハ</sup>……

嵯<sup>フ</sup>源<sup>ノ</sup>記<sup>ハ</sup>豊田麻呂善<sup>ノ</sup>蟬<sup>ノ</sup>歌<sup>ノ</sup>堤<sup>ノ</sup>中<sup>ニ</sup>訓<sup>ス</sup>言<sup>ハ</sup>……

……  
……

……○

五言

……  
……

増鏡<sup>ノ</sup>……十月亦<sup>ハ</sup>……

……  
……  
……久明親王得  
……  
……

シ玉ノ時也此  
園ハ足柄ニヤ

セキリクワモ背垂

字ヲ跡 履系君

セキリクワモヨリ一をうけて

セキ多かり 狭き海をさぐりて

長明無名抄上六才を現はせば

○

せんトコウキ 宜旨書

源タカラ あつてのせん  
宿木 せん  
其の海

せんトコウキ

増鏡 十七日 龜山殿へ 御幸 御中 畠山 道長 御

中 御言奉りて 北面の 信玄と

中 御言奉りて 北面の 信玄と

中 御言奉りて 北面の 信玄と

中 御言奉りて 北面の 信玄と

いふ海に...  
お物...  
○

六言

源玉

源玉...  
○

増鏡... 同東

増鏡...  
○

同東...  
○

同東

同東...  
○

同東...  
○

同東...  
○

同東...  
○

同東...  
○

同東...  
○



せしおのまゝ、関所ヲ守井ル意カ

中野口に少藏人の墓ありて其の墓に

とありて

散水ニは地ノちいさく人々

宝物

河石集同

○

せし海へおきぬ

山家下十七

九言

小五月の祈草

中野口に五月九日小五月の祈草有る

十一言

せうしんしんの人  
山家下  
竹の原  
の神中

その部

一言

そ兼ノ字音

小馬命婦集  
そまの殿のま  
○その菊  
村 神中  
○志

その人伊勢

二言

そく畧

源 鑑  
こまのそまの殿のま  
○その菊  
村 神中  
○志

其所の人にもよく

長明無名抄上巻 源朝臣 室代よりゆき

○金葉雜上巻 成助にきく 源朝臣

源朝臣 源朝臣 源朝臣

源朝臣 源朝臣 源朝臣

○

其そ

源朝臣 源朝臣 源朝臣

も

りこキヤウ

其そ

又本世ニある

其そ 其そ 其そ 其そ

とカリノッコ

其そ 其そ 其そ 其そ

源朝臣 源朝臣 源朝臣 源朝臣

源朝臣 源朝臣 源朝臣 源朝臣

源朝臣 源朝臣 源朝臣 源朝臣

源朝臣 源朝臣 源朝臣 源朝臣

源朝臣 源朝臣 源朝臣 源朝臣

源朝臣 源朝臣 源朝臣 源朝臣

イセツシ  
シヒワシ  
コノミツシ  
チシミツサス  
ヤノリセヨ  
シツシ  
イハヒワシ





一トナリ

一トナリ 〇同慶の... 〇同慶の... 〇同慶の...

一トナリ

一トナリ 〇同慶の... 〇同慶の... 〇同慶の...

一トナリ

一トナリ 〇同慶の... 〇同慶の... 〇同慶の...

一トナリ

一トナリ 〇同慶の... 〇同慶の... 〇同慶の...

一トナリ

一トナリ 〇同慶の... 〇同慶の... 〇同慶の...

一トナリ

一トナリ 〇同慶の... 〇同慶の... 〇同慶の...

一トナリ

一トナリ 〇同慶の... 〇同慶の... 〇同慶の...

一トナリ

一トナリ 〇同慶の... 〇同慶の... 〇同慶の...

一トナリ

一トナリ 〇同慶の... 〇同慶の... 〇同慶の...

一トナリ

一トナリ 〇同慶の... 〇同慶の... 〇同慶の...

年来神ト云虚名乗ヲノ〇

某

思フ

〇一カ... 〇一カ... 〇一カ... 〇一カ... 〇一カ...

歎

〇一カ... 〇一カ... 〇一カ... 〇一カ... 〇一カ...

三言

〇一カ

続 飯 江 決 算

〇一カ... 〇一カ... 〇一カ... 〇一カ... 〇一カ...

て〜のやうにして一を〜の。枕丹子ん〜の  
 か〜ゆ〜の〜の〜の〜の  
 ○四季物語 正月  
 ○続板 江次郎

盛衰記 四舎人カワクビ子実寺内ノ外へ追出  
 不

茶を 湯よみぶ別べつ 三十三  
 〇同日 茶を 湯み別 〇同日 湯み別 〇同日 湯み別

此書、多岐に二月つゝ、あま〜。〇後衣一下 廿九  
 〇同日 〇同日 〇同日 〇同日 〇同日  
 裏記三澄憲更ニワ、カガメニカヒ 十三カ  
 二十舞羽テ〇今昔廿六 廿一 廿般ノ中ニ者ノワ  
 ヨリ〜ト鳴テ勅ケルヲ見テ





そとろん

源 ねん

そとろん へん せう じゆん

カリハノ人ノミルナリ  
カリハラノト云ニ近シ

○

そとろん

修撰 中 へん

日 記

日記

日記

日記

日記

日記

日記

そとろん

源 初音 へのうち せう じゆん

そとろん

百一

○ 言 大 記 言 新 一 復 へん せう じゆん の へん せう じゆん  
へん せう じゆん へん せう じゆん へん せう じゆん  
へん せう じゆん へん せう じゆん へん せう じゆん  
へん せう じゆん へん せう じゆん へん せう じゆん  
へん せう じゆん へん せう じゆん へん せう じゆん  
へん せう じゆん へん せう じゆん へん せう じゆん  
へん せう じゆん へん せう じゆん へん せう じゆん

そとろん

後撰 秋上 方別

久々... 天の河原... 女七郎ん

三行成者相水  
うき家集 六十七家本

○六帖 ○家集 ○契仲云此哥四句 家集 母ハ

ハヤ... 六帖 母ハ... 但行成

大細言葉 母ハ... 其母從少

母ハ... 水... 母ハ...

新恒集

同異本

母ハ... 母ハ... 母ハ...

コノ...

そ...

枕丹子<sup>十七</sup> 物丹...

源放

大和物語

源放 虚寐

源花宴...

云... 虚寐...

テ卧... 源...

空目

抄送離下 伊勢  
 凡葉非引... 細言  
 月影も入るその戸は  
 考ふべき 國政屏風

○源々 多そうれ時々 月々

言

上... 人...  
 〇

そのいみ

... 人...

... 奉...

○當 初 東鑑 五 大和物語

... 同同...  
 ... 大和物語...

○日... 〇

そら

契云拾遺雜賀 元補

そら

そら 五音相通也

丈本廿七 正法百卷 土御門内大臣

○

そら 未詳

丈本六 天仁元年大嘗會 藤原正家

○

そら 袖書。そら

拾玉五 そら

そら

竹取 山のそら

七見が

そら



山家集上

三門花の白くはるる風

百代冬 西声混波 堰河七下片

嵐吹時 白くはるる風

○源 第 本

○枕 丹子 三五 万 万

白くはるる風

三門花

白くはるる風

○源 相 意

○月 知 葉

三門花

字 鏡 集

○源 相 意

白くはるる風

白くはるる風

白くはるる風

三門花

万 一

十載 秋下 公 宗

白くはるる風

堀 百 麻

支 木 松 正 二 位 忠 宗

白くはるる風

同蓬 赤澄

久安不登 内大進

通三九女

○

山ノ...

深付

東鑑四十七卷 深付五十端卷結三十足○

〰

竹取... 〇統紀宣命 骨毛曾毛 〇大和物語 百世...

〰... 〇同百七十... 〇土佐日記...

〰... 虚言

後撰雜二

中井路

拾遺雜意

六帖 大...

〇後撰拾遺雜四...

~~~~~

六帖

○ 福くちか 霜くちか 主維の文庫をいふ人ひ

○

~~~~~ 空啼。空青

六帖

○ 十早林を以て神の宮と云ふ

公任集

○ 里の女を以て神の宮と云ふ

後撰集ニ云ふ

○ 天の甲を以て神の宮と云ふ

抄更集

○ 都の女を以て神の宮と云ふ

○ 山崎の女を以て神の宮と云ふ

○ 菅浦の女を以て神の宮と云ふ

上西門院兵衛

~~~~~

○

~~~~~

隆信集 〇 せんさうせん〇源がら

~~~~~ 〇

~~~~~ 徐々

玉之門 十云出雲風土記の毛曾呂々々ルと  
~~~~~ 後世の俗言ふらうと云ふ 〇

五言

そく小君 尉君

大和物語 終り 小君の物ゆえんとし 平 什兵衛尉

そくしつ

盛衰記十八北面ノ者共ハナキケ急キリクト  
突ケト仰ナリ。

そく之し 俗聖。即優婆塞也

源頼朝 そく之し 見し 人々めつけぬ。

そくか

源頼朝 しそくか さいおろ 葉の小児の

葉を 抄を あら 叶を 今昔

七八十一 守返り 来たりケルニ 怪リ モ 女房 共モ

ス、口ヒタル 気色 見エケレハ 同世九十五

只ス、口ヒニス、口ヒテ 源野分 抄

ぬき 抄

その源

保憲女集

秋風のさしこむいそひの秋の母そのつらさね人恋ひ

板政集

心ゆくあそびや中納言花さき秋舟の風舟そよよ

○

その几帳

望むに 斐王殿 けしきくさくさ秋をあやみは

清く几帳のあそびをくさくさ秋の松茸紙

糸 けしきのさきさき けしきのさきさき けしきのさきさき

あそび けしきのさきさき けしきのさきさき けしきのさきさき

そのけりて

後撰集 右不伝北方

そそくそそくそそくそそくそそくそそくそそくそそくそそく

忠度百首

あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそび

○

そのあそび

百十九

袖あそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそびのあそび

○拾遺春を見母○

そのまゝ

新六 知家

袖の油のしみ

色茶和難抄

百代意心 権中初巻

散木集

七夕の 油のしみ

林葉集

今撰集

油のしみ

解し

あ

○

そのまゝ

今昔世八四

○

そのまゝ

古今誹諧

百代雜三知家

〇 〓〓〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓

〇

〓〓〓〓

士二集

〇 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓

〇

〓〓〓〓

松道物名 〓〓〓〓 高岳相女

〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓

〇 契云 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓

〇 〓ハスヘテ 物ノオヒタクツ字ナレハイラナラ

ンイヒツヤスタトイフモソノカストイフ

モフノ字 〇

〓〓〓〓

後於直四紫式部

〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓

新古意一馬門侍

〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓

紫集

〓〓〓〓

百代意四 殷富門院大輔

〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓 〓〓〓〓

○

六言

そりー 蘇合

樂名 多し 長明無名上母子○

そりえは神 未考の退方ニテ天比ノ退方ノカキリ  
百代賢匡房 アルトアル神トイフ意ナルハキカ

八百系そりえの神のそりえは

そりえは神 今俗ニタキツケルトイハリ小児ヲ子  
サスルサマナリ

そりえは神のそりえは

そりえは神のそりえは

そりえは神

今昔廿八世シタリ顔ニ云張りテ口脇ヲ下ケ

袖 延ヒ上リテ申セハ○

そりえは神

古今秋土在系棟梁 秋の神の草の神の

秋の神の草の神の 油の神の



○余杖

和我袖波多毛登等保里互双礼双等母故非和  
須礼我比等良受波由可自○

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

互代を同

○

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

鬼唇口訛りふをそれといふの漆~~~~~

~~~~~  
~~~~~

漆菌~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

今昔廿八世空ヲ仰テ老ノ波ニ極キ態カナト  
歎コト無限シ〇源ノ流

~~~~~

河内深谷口語  
~~~~~

孫王君七

〇源彬枝

はん

~~~~~

〇河可考

〇源

若菜下

~~~~~

河子代マテ  
孫王ト云

也〇

七言

~~~~~

枕冊子世七

~~~~~

~~~~~

八言

~~~~~

今昔十九十八糸

聖人罷出ナムトテ大夫ノ前ニ

袖抄合ニ居テ言ク〇~~~~~



神雖乱則射答矢。○同世八十四。僅造取声答箭。  
爰敵軍出逢馬場。迎射答箭。○

多け菫

常盤姫物語。多け菫。多け菫。多け菫。多け菫。

志多きけ志多きけ。多け菫。多け菫。多け菫。多け菫。

け多きけ。多け菫。多け菫。多け菫。多け菫。

和多利ト云テ。菫必ス死スル物ト聞テ。山ヨ

リ取り持来テ。密ニ食フ。○同世八十八。和多利

ノ下アリ可考合。○紀畧一条。帝寛弘二年四

月八日。今日。福日院。別當。惟静。依左大臣。請来。宿東  
洞院。土御門。边之。問。今朝。食菫。八人。醉卧。其中。二人  
死々。残六人。存命。京中。貴賤。觀者。如堵。○万葉  
下詠。芳菫。本居云。高松之此。峯。迥尔。笠立。而盈盛  
有秋。香乃。吉者。

多け關

山家集上

多けの原。多けの原。多けの原。多けの原。多けの原。

○

多免 ト、詞人

袖中七 仲実

同上 仰時

○ 思ひを絶つ免のゆれども 思ひを絶つ免のゆれども 思ひを絶つ免のゆれども

三言

道具

讚岐日記 道々を絶つ免のゆれども 思ひを絶つ免のゆれども

多免

多免

紫日記上十六 攤 くらも紙のあつて思ひを絶つ免のゆれども

○ 紫花 くらも紙のあつて思ひを絶つ免のゆれども

くらも紙のあつて思ひを絶つ免のゆれども

ぬきみ 小左近

花 くらも紙のあつて思ひを絶つ免のゆれども

○ 序 くらも紙のあつて思ひを絶つ免のゆれども

くらも紙のあつて思ひを絶つ免のゆれども

二年五月廿日三夜云 立切燈臺於

座上置菅因座一枚大進清隆置筒篋

於円座上次殿上待臣兩三人参進置紙

自下廊上達部周置之次有擲攤之真事

置之  
六月二日五夜並同〇和名抄意錢滾

漢書注云——此間云世今之攤錢也

柱苑珠叢挾云以手有所搓謂之攤

唐韻曰擲音諾何反攤柳也字尔作攤

此間云馱音七何反攤錢也訓毛無

○安存隨筆引玉海

### 高瀬

丈夫七 及原敦隆

*高瀬*  
たしつゝらけのなかにしるしを  
あはれもよむる  
あはれもよむる

### 手草

古語拾遺云以竹葉飲憩オケ木葉為手草今クダク

百代誰一権中確初證舞

新六葉回知家

*手草*  
しんろくはては

○

*手草*  
人、うゝ、ノ、実、事、実、説、ヲ、ヘ、ク、テ、キ、ク、リ、ニ、イ、ハ、リ

*手草*  
あはれもよむる  
あはれもよむる

廣海云云  
之上有  
あはれもよむる  
あはれもよむる



是の如く人の心は... 〇知願抄...  
 まい子もあひま... 〇花若水...  
 の光りぬく... 〇雪母...  
 〇多もふそ... 権僧正...  
 何ホトイノリ... 〇字...  
 〇春の山... 〇日...  
 〇海... 〇回...

〇... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇...  
 〇... 〇... 〇... 〇...

続  
 詞花神祇

〇...



竹取清之原草のふれをみゆめくす○日枕  
元のゆりくさるるにささるるしほもゆめ○字つ保珠  
きりゆめりしほのふれにゆめりてゆめ○日枕  
下ゆめりしほのふれにゆめりてゆめ○日枕  
工院 ぬめりしほのふれにゆめりてゆめ○日枕

きりゆめりしほ

拾遺集一 実音  
ぬめりしほのふれにゆめりてゆめ○日枕  
新和百苗代 ぬめりしほのふれにゆめりてゆめ○日枕  
正二集下 ぬめりしほのふれにゆめりてゆめ○日枕

林泉集一

山里のきりゆめりしほのふれにゆめりてゆめ○日枕  
新和百苗代 ぬめりしほのふれにゆめりてゆめ○日枕  
残のぬめりしほのふれにゆめりてゆめ○日枕

るるゆめりしほ

玉膳間 ぬめりしほのふれにゆめりてゆめ○日枕  
花のゆめりしほのふれにゆめりてゆめ○日枕  
ぬめりしほのふれにゆめりてゆめ○日枕  
ぬめりしほのふれにゆめりてゆめ○日枕



夕夕ノ神

多むけ 峠

堀百

拾遺草上

都出々胡々山々多むけ々々家々々々女々風々々

又本廿七 舊契週年後秋

物々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

○拾遺雜上 物々々々々々々々々々々々々々々々

袋い 々々々々々々々々々々々々々々々々

あ 々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

多むけ 橋

後拾雜五実字

々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

○

多むけ 貯

み 々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

多むけ

新 朔 九月 好志

々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

○源氏系

あや 々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

薩 麻 史 記

○源 御 子 々々々々々々々々々々々々々々々々

○ ちかきしに ○

四言

あゝ志也 大綬

中誓り純清 ちかきしに 大いしに ちかきしに  
ちかきしに ちかきしに ちかきしに ちかきしに ○

帯説

和草 妻草 和豆 和子 和木

○ 源 ちかきしに ちかきしに ちかきしに ちかきしに  
ちかきしに ちかきしに ちかきしに ちかきしに ○

両風 両凡 咲散

人 ちかきしに ちかきしに ちかきしに ちかきしに

全葉雜一 信正行寺  
草亦 ちかきしに ちかきしに ちかきしに ちかきしに

○ 今昔十九五 只手足ノ向タテニ 行テ

尋テント ○ 土佐日記 三十日 両風 吹ケル

古今物名  
本居 ちかきしに ちかきしに ちかきしに ちかきしに ○

あゝいそい

雲井のみり ちかきしに ちかきしに ちかきしに ちかきしに ○

多し

本番云ヤフキノゲム 意ハ物ヲ願フ

可耳

白やうき 多し 杖 山を せん

同十二

月なき 母君を せん

○

多し 多し

高野日記

家なき 母君を せん

○ 著聞五成源信正の連を せん

の考も せん

多し 今俗ニイフスカホニ

○ 言塵集 席人の せん

多し

新撰字鏡 太々良女 ○ 内膳式 多々良 ○ 風俗

哥

多し 手鼓

字初保 有系天 〇

多 〇

字初保 〇 〇 〇

〇 〇 〇 〇 〇 〇

〇 〇 〇 〇 〇 〇

多 〇 肥点

〇 〇 〇 〇 〇

多 〇 柳

拾遺雜春 柳とて 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

元 〇

多 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

カマテ

可代雜四 後朱 荏院 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

川院 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

内親王 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

多岐川

新古巻一 長方

正徳の御代に於ては、  
後格春上 何智大辨

百代巻四 〇

〇

多岐川の 魂殿。殯宮。定宗々云々

日本紀畧云万寿二年三月廿五日皇后宮城子  
崩四月十四日皇后宮 葬 穀玉殿了九月廿四日  
前皇后城子改葬

多岐川

三代実録 七七短籍。同世五短丹。〇

〇 枕草子ノハ 哥ヲ

〇 枕草子 哥 みくく

合ニ 菊ニ 短丹 ヲケシ

上委シ

多岐川 短綴

中盤り地 物大の けう

しゝゝ二つら 湯も 湯らの 湯らゝ けらゝ 湯ら

多々々々々

リウナナ

元補集

多々々々々の 多々々々々 多々々々々 多々々々々 多々々々々 多々々々々

多々々々々 多々々々々 多々々々々 多々々々々 多々々々々 多々々々々

○イ本 多々々々 多々々

士二集下世ニウ

多々々々々 多々々々々 多々々々々 多々々々々 多々々々々 多々々々々

○後頼口傳 多々々々 多々々々 多々々々 多々々々 多々々々 多々々々

集 多々々々 多々々々 多々々々 多々々々 多々々々 多々々々

印文集

多々々々 多々々々 多々々々 多々々々 多々々々 多々々々

○

多々々

今拍語 多々々 多々々 多々々 多々々 多々々 多々々

多々々

艶れ戯れ

保憲女集

多々々 多々々 多々々 多々々 多々々 多々々

○

五言





ゆゑに

後二上 世三

指返物名

後拾遺三  
何ぞの身  
ゆゑに

○源治母又

○同

○同

○同

ゆけのつ原 竹菴。未詳某殿

山家集上 如茂の隙時力由つる

士街門内裏

ゆゑに

ゆゑに

○

百十二

指返草上

ゆゑに

多々うみ 畳紙

指込糸備

後撰十九

○源夕龍

○同室蟬

多々うみ

万

袂衣一上 廿九

多々うみ

髪ヲ

○枕冊子廿四

多々うみ

多々うみ

多々うみ 山原町の如形 松明

和名炬火

俗云方丈  
阿加也

○中務内侍日記 一のいん

のきり 多々うみ

○袂衣三四十中三十 多々うみ

多々うみ

多々うみ

多々うみ 多々うみ

多岐と

百代並五 和泉或部

○ 多岐と 和泉或部 多岐と 和泉或部 多岐と 和泉或部

○

多岐と人

○ 多岐と人 多岐と人 多岐と人 多岐と人

○ 多岐と人 多岐と人 多岐と人 多岐と人

多岐と

神ノ沖旅下ニ。今界沖旅トイフ

○ 神ノ沖旅下ニ。今界沖旅トイフ 神ノ沖旅下ニ。今界沖旅トイフ

○ 神ノ沖旅下ニ。今界沖旅トイフ 神ノ沖旅下ニ。今界沖旅トイフ

○ 神ノ沖旅下ニ。今界沖旅トイフ 神ノ沖旅下ニ。今界沖旅トイフ

多岐の人 配流ノ人ヲイヘリ

○ 多岐の人 配流ノ人ヲイヘリ 多岐の人 配流ノ人ヲイヘリ

多岐と

○ 多岐と 多岐と 多岐と 多岐と 多岐と 多岐と





記云除夜祭其先祖長幼聚飲祝頌而散謂之分  
歲○枕冊子  
○つれ草

多由むすむ

古方新下

あつこりし油のりりあやりりあやんあまあましひのぬきくらす

○江次第十九院鎮魂所玉結線今入赤竈神之鍋  
官司封件鍋一口也隔年之

小馬今婦集

ぬしあつこりし油のりりあやりりあやんあまあましひのぬきくらす

伊勢

あつこりし油のりりあやりりあやんあまあましひのぬきくらす

新勅立二道細

さ衣のつゆもむすむん玉のたのまゝえんは世やうん

狭衣

あつこりし油のりりあやりりあやんあまあましひのぬきくらす

玉のりりあやりりあやんあまあましひのぬきくらす

小待候

あつこりし油のりりあやりりあやんあまあましひのぬきくらす

和泉武的

あつこりし油のりりあやりりあやんあまあましひのぬきくらす

○袋中子四 身人魂

あつこりし油のりりあやりりあやんあまあましひのぬきくらす

三返誦之男左女右ノツマナ結ヒテ三日ヲヘテ解  
之

多由むすむ

野府記云万寿二年八月七日丙辰云昨夜風

兩間陰陽仰恒盛石衛門尉雅孝昇東對上尚待

魂呼クマヤビ近代不聞事也○東鑑八云文治四年五月

一日酉尅乾方成響是若魂打欣非雷声恒聞

不及云云。教王經弟十名金剛安立弟十四名

寺識還来云谷響集ニエタリ○礼喪大記云

弁自東中屋履ウチ危北面三号捲衣投千前司服

受之降自西北凡復男子称名婦人称字鄭

玄注復招魂復魄也○

多々云々 垂氷

壺百早藏

隆信集

壺百早藏のうらもあつた風はそよみあはれ葉も舟をくむいり

源太楠

朝霧のたつたのちいさけなうらもあつたのむすあつたん

曾舟集花

朝霧のたつたのちいさけなうらもあつたのむすあつたん

○源浮舟 朝のきよいひの

達磨宗

長明無名抄下並傳古体以達磨宗と云々名自云

元多りの指遺負外下六首書以達磨宗と云々



目有○拾五五<sup>七</sup>十<sup>四</sup> 道ふとやハ此此時をん事ハ  
以是○其後の手書とをふのくし<sup>七</sup>福<sup>七</sup>書<sup>七</sup>書<sup>七</sup>に<sup>七</sup>詞  
と<sup>七</sup>し<sup>七</sup>は<sup>七</sup>し<sup>七</sup>を<sup>七</sup>ふ<sup>七</sup>と<sup>七</sup>も<sup>七</sup>半<sup>七</sup>を<sup>七</sup>不<sup>七</sup>立<sup>七</sup>文字<sup>七</sup>の<sup>七</sup>ん<sup>七</sup>し<sup>七</sup>を  
達磨宗とし<sup>七</sup>今昔<sup>七</sup>世<sup>七</sup>傳<sup>七</sup>教<sup>七</sup>大<sup>七</sup>仰<sup>七</sup>震<sup>七</sup>且<sup>七</sup>ニ<sup>七</sup>ノ  
達<sup>七</sup>廣<sup>七</sup>宗<sup>七</sup>ヲ<sup>七</sup>立<sup>七</sup>テ<sup>七</sup>ム<sup>七</sup>所<sup>七</sup>ヲ<sup>七</sup>撰<sup>七</sup>ヒ<sup>七</sup>ヤ<sup>七</sup>レ<sup>七</sup>リ<sup>七</sup>ケ<sup>七</sup>ル<sup>七</sup>ニ<sup>七</sup>ハ<sup>七</sup>即  
天台宗カ又禪宗ヲ云カコ  
ハ奇ノ<sup>七</sup>ア<sup>七</sup>ラ<sup>七</sup>ス<sup>七</sup>○

多しつゝ

金葉忠上 抱ひけら 女の髪をうきよつてみよ  
に 湯当回基

新院 髪をうきよつてみよ  
統初元 中法時寺入道  
新六ツツ信実  
人としていひのん 髪をうきよつてみよ  
士ニ中  
若柳のうきよつてみよ 髪をうきよつてみよ

六言

多しつゝのきよみ

紫花 花山 四十一

○大鑑 一天下 大

臣公卿の所中此多しつゝのきよみ

けりまの目ニ。あつれ君貞信公に。おとし  
よし

きつゝの花

花 こうのま きつゝの花 つゝ

あつれ

空の玉 こころ けりまの目 こころ けりまの目 こころ  
花 こころ 花 こころ 花 こころ 花 こころ 花 こころ  
花 こころ 花 こころ 花 こころ 花 こころ 花 こころ

その北 こころ けりまの目 こころ けりまの目 こころ けりまの目 こころ  
花 こころ 花 こころ 花 こころ 花 こころ 花 こころ  
花 こころ 花 こころ 花 こころ 花 こころ 花 こころ  
花 こころ 花 こころ 花 こころ 花 こころ 花 こころ

きつゝの神 ま

花 こころ 花 こころ 花 こころ 花 こころ 花 こころ

あつれ

けりまの目 こころ けりまの目 こころ けりまの目 こころ けりまの目 こころ

拾五回

きくしーのりき きくしーのりき

源 領 九

多岐のねりき 谷軒

源 領 多岐のねりき 谷軒

多岐のねりき

多岐のねりき 谷軒 源 領 多岐のねりき 谷軒

郵六 知家 雨道 多岐のねりき 谷軒

○分類 古田 多岐のねりき 谷軒

玉くーのり

延喜大神宮式太玉串 著本 綿賢本 是名太玉串

統古 難下 後 散木

袖中十四

神風 玉くーのり 多岐のねりき 谷軒

同六 祝

神風 玉くーのり 多岐のねりき 谷軒

百代神祇 土御門院

○百代神祇 一部兼直 玉子の家○

魂めのまゝの 冥夜殿

茶花 花の月

さよやまはるかにあくるおとろふかよめをよめること  
同日

ありとて中人のさうらんちりあやうのさうのまきいり物

十言

きまへくあやみ

西行和歌談抄蓮阿 児のきまへくあやみきまへく  
作

○ 萬をふとさしぬるまやれさふあしやほさのあやまへり

多岐の浦川 里 七夕祭

拾遺雜秋系 齋院沙屋風舟 多岐のまへり

下○

多岐の浦川 里 戲女

統世絶 多岐の浦川 里 忠胤傳 都のうらみえ

多岐の浦川 里 多岐のまへり○

玉の盃

袖中拵四七 玉の盃 秋の玉の盃 玉の盃 玉の盃  
玉の盃 玉の盃 玉の盃 玉の盃 玉の盃  
玉の盃 玉の盃 玉の盃 玉の盃 玉の盃  
玉の盃 玉の盃 玉の盃 玉の盃 玉の盃

玉の盃

玉の盃 玉の盃 玉の盃 玉の盃 玉の盃  
玉の盃 玉の盃 玉の盃 玉の盃 玉の盃

○神中抄

玉の盃 玉の盃 玉の盃 玉の盃 玉の盃

昔言

昔言 昔言 昔言 昔言 昔言  
昔言 昔言 昔言 昔言 昔言  
昔言 昔言 昔言 昔言 昔言

○昔言 昔言 昔言 昔言 昔言  
昔言 昔言 昔言 昔言 昔言  
昔言 昔言 昔言 昔言 昔言

八言

八言 八言 八言 八言 八言  
八言 八言 八言 八言 八言  
八言 八言 八言 八言 八言





ちの部

二言

ちと

中野日記 ついてはちと入湯解して色赤つたぬ  
 〇志気原上 い海らゝと云志門をとも。〇今物語ちと  
 ちとくゝとていふ海鏡せんゝと云りてと云い。同  
 ちとくゝとていふ海鏡せんゝと云りてと云い。同

三言

ちよ



新子歌 上畧 如是力 実家  
 みるゆくと 岩屋母 游りて ともきり くれりて くらし海母  
 玉葉 秋下 彦原為守  
 伊豆守母 ともくろく えて 行舟の 晴間ふ ちや 風と 志つた  
 ○ 菜花 玉巻 ちんちん くらん の ちんちん ちんちん ちんちん

ちんちん 地敷。延喜御記 河

源若菜 所ちんちん 四十枚 ○ 花鳥地敷 唐庭に 大文  
 高麗 へんちんちん ちんちん ○ 菜花 湯雲 志んちん の ちんちん 母  
 乃く ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ○ 假字 装束  
 秋云 けきんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん  
 即地 友之 ○

ちんちん 地摺

菜花 ちんちん の 裳 ○ 日 日 四十七

ちんちん 乳舟

宇野 湯深 春日活の 末に 錯入 虎大井 麓の 北の方 けちんちん ○

ちんちん

源若菜 小侍 けちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん  
 母子 柏木 ○  
 乳母 ノノヒ ○  
 女 三



勅チヨク

大鏡 貴之女

勅 御前ミマヘ 御下ミタマ 御上ミタマ 御中ミタマ 御左ミタマ 御右ミタマ 御前ミマヘ 御下ミタマ 御上ミタマ 御中ミタマ 御左ミタマ 御右ミタマ

○拾遺雜下 女メ の女メ

久安百首 季通

身ミ 木キ 水ミヅ 火ヒ 土ツチ 金イロ 石イシ 花ハナ 鳥トリ 虫ムシ 魚イサナ 草クサ 木キ 水ミヅ 火ヒ 土ツチ 金イロ 石イシ 花ハナ 鳥トリ 虫ムシ 魚イサナ 草クサ

山家集上

勅 御前ミマヘ 御下ミタマ 御上ミタマ 御中ミタマ 御左ミタマ 御右ミタマ 御前ミマヘ 御下ミタマ 御上ミタマ 御中ミタマ 御左ミタマ 御右ミタマ

新六つ金 光隆

勅 御前ミマヘ 御下ミタマ 御上ミタマ 御中ミタマ 御左ミタマ 御右ミタマ

新後撰新上

勅 御前ミマヘ 御下ミタマ 御上ミタマ 御中ミタマ 御左ミタマ 御右ミタマ

○

四言

中元

唐六典道士存有七名云云其四曰三元存正月十五日天官為上元七月十五日地官為中元十月十五日水官為下元○

中間ナツマヅメ

布衣記 永仁三年記録 一馬の取僮僕者事衛府  
取童一人郎從二人調度縣一人舍人二人中間  
六人其外ハ隨時トキトキのいふハ若黨中間跡二上下



~~~~~

ち、ぬー父

源、名、の、同、歌、女

~~~~~ 干、別

百、葉、六

恰、送、難、上

~~~~~

十、分、ハ、カ、キ、ア、ヤ、マ、レ、リ  
ナ、リ、十、名、ト、ア、リ、シ、ナ、リ  
六、帖、也、衣

ト、ニ、カ、リ、ニ、ト、カ、  
如、シ、イ、サ、ク、ノ、意、也

ち、~~~~~

~~~~~

外、ニ、モ、多  
~~~~~

ち、~~~~~ 笛、譜、~~~~~

~~~~~

○

~~~~~

源須テのまはらうとてあつ引く一あり○  
和泉式部集人毎あひてあつ一あを昆外にまを  
てみまをくまうとてあつ一あを昆外にまを

五言

ちりしぬる籟声

今昔廿六廿四以前ノチウト鳴テ暑テウト鳴テ  
外へ返タレハ○

ちりしぬる 近四ニモヌマコトノ隣ニモイハリ

拾遺雜秋ちりしぬる籟声一ありて○  
之集同○拾遺同あつ一あを昆外にまを  
あつ一あを昆外にまを○  
上ちりしぬる籟声一ありて○

ちりしぬる

葉集

ちりしぬる籟声一ありて○  
○酒 籟声 ちりしぬる籟声一ありて○  
ちりしぬる籟声一ありて○  
ちりしぬる籟声一ありて○

ちり草 未詳

異本堤中納言物語

あゝかゝるもとくはさびしき  
ちり草よえーみゆれとくもさびしきあゝかゝる

○

ちり草

十雜中花堂不法出寺小まゝを堂の奥のちり散

ちり草よみゆれとくはさびしき

あゝかゝるもとくはさびしきあゝかゝる

ちり草 散ハサス

あゝかゝるもとくはさびしきあゝかゝる

ちり草よみゆれとくはさびしき

ちり草

続詞花戯咲

ちり花

全義類云 礎砌の金釘帯に花のちり草をまゝにまゝ

ちり草よみゆれとくはさびしきあゝかゝる

是ハ実の花を散花の花也

ちり草よみゆれとくはさびしき

ちぬを

十考上 右大段

○ ちぬを 咲け 世の せ

六言

ちぬを 近衛

○ ちぬを 咲け 世の せ  
タノニニシテヤ  
スケスルヲイッ

ちぬを 誓詞神文

千意五 九大将 朝光り ちぬを 咲け 世の せ

とせしや 免 けり ちぬを 咲け 世の せ 馬門待

子早振 ちぬを 咲け 世の せ

ちぬを 車 今俗ニ云 大八車

采花 疑 ちぬを 咲け 世の せ

て ちぬを 咲け 世の せ



ちひしうたり 幼大ヨリし

茶をいひて ちひしう ちひしう ちひしう

いひ○

ちひしう

茅卷 柱カ。地横を亦地力ゆのゆき

長名無名抄上 ちひしうのちひしうのちひしう

つゆのちひしうのちひしうのちひしう

ちひしうのちひしうのちひしうのちひしう

ちひしうのちひしうのちひしう

ちひしう

ちひしうのちひしうのちひしうのちひしう

○袋中子

ちひしう 今俗ニコロロカリニワサトニ云ニ云ニ

落くほニ世北ノ方ヨリ女君ノ

ちひしうのちひしうのちひしうのちひしう

十言



八言

古くもしる年月

新六

六帖

子早ゆき... 新物集

○盛衰記四世二 卯月八神ノ月ナレ氏再并ト云 人モナク

著 馱政



市代雜ニ着 馱政を... 道奇法師

○拾遺抄注云市門ハ七条楮隈ノ市屋アリ市 祭アリル也着 馱 糸ナリ 隻冬二度アリ。公 事 根源

ちりしと

野子鏡序... 白氏文集 親見戲詩 弄塵復關

草ノ朗詠佛事浪洗欲消鞭竹馬而不顧而打易破 園芬鷄而長志

私註云周公旦世家云 鷄者聞以芬吹其羽



